



洗を搾る図



第34回 企画展

自然塗料

「赤山洪」

かつての郷土特産物

令和4年3月5日(土)
▶ 5月8日(日)

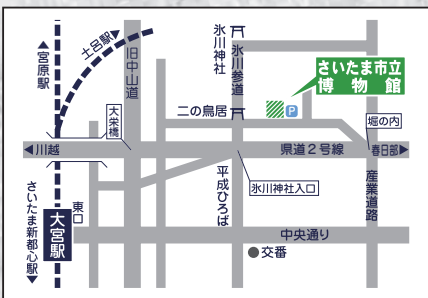
開館時間 / 9:00~16:30 休館日 / 月曜日(3月21日は開館)、3月22日(火)

さいたま市立博物館

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2-1-2
TEL: 048-644-2322 FAX: 048-644-2313

さいたま市立博物館ウェブサイト
<https://www.city.saitama.jp/004/005/004/005/008/index.html>
さいたま市の博物館Twitter
<https://twitter.com/SaitamaMuseum>

※新型コロナウイルス感染症対策を行っております。なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、展示期間、講座等が変更となる場合があります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



Twitter



Web

- 大宮駅から徒歩15分
- 駐車場が狭いので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

自然塗料「赤山渋」～かつての郷土特産物～

柿は、日本では古くから親しまれた果実であり、現在に至るまで各地で植栽され、食べられています。一方、このような食用だけでなく、渋柿の渋を醸造し、「柿渋」という、防水性・防腐性をもった塗料を生産するための素材としても利用されていました。

現在のさいたま市東部から川口市北部にかけての、大宮台地を中心とした地域の農家では、江戸時代後期から昭和戦後にかけて、柿渋が盛んに作られました。この柿渋は「赤山渋」と呼ばれ、江戸を始め関東各地に出荷され、家屋の外壁や投網、団扇、提灯、唐傘などの塗料として使用されていましたが、化学塗料が普及していく過程で生産されなくなり、今では見ることができなくなっています。

本展示では、かつて郷土の特産物として名を馳せた「赤山渋」について、古文書や生産用の道具、製品などの資料を中心に紹介します。

展示構成

- 序章 柿と日本人
- 第1章 柿渋のあゆみ
- 第2章 柿渋をつくる
- 第3章 柿渋をつかう
- 第4章 「赤山渋」～かつての郷土特産物～

企画展関連イベント

① 体験講座「柿渋でTシャツを染める」

講師／山崎 利江 氏(楽布の会 主宰)
日時／3月19日(土) 9時30分～12時

② 講座「赤山渋の再現プロジェクト」

講師／井上 二三世 氏(新井宿駅と地域まちづくり協議会 会員)
日時／3月20日(日) 13時30分～15時

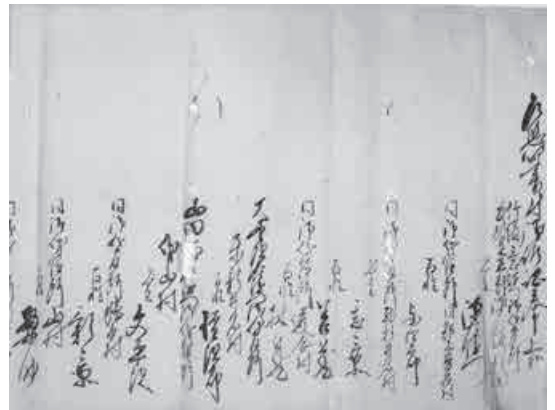
③ 講座「赤山渋の生産と流通」

講師／松岡 聖子 氏(埼玉民俗の会 会員)
日時／3月27日(日) 13時30分～15時30分

申込／①3月3日(木)、②3月8日(火)、③3月10日(木)
いずれも9時から電話で当館にお申込みください(先着順)。
定員／①20名 ②30名 ③30名 費用／①200円 ②無料 ③無料
会場／当館1階講座室

学芸員による展示解説

日時／3月5日(土) 11時～・14時～
4月17日(日) 11時～・14時～
5月3日(火・祝) 11時～・14時～
所要時間／各30分程度
費用／無料
申込／不要



柿渋にまつわる訴訟に関する資料
(深井家文書 個人蔵 当館寄託 さいたま市指定有形文化財)



「柿を搾る道具」
(川口市立文化財センター蔵)

